

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年5月26日 (2016.5.26)

【公開番号】特開2014-236794(P2014-236794A)

【公開日】平成26年12月18日 (2014.12.18)

【年通号数】公開・登録公報2014-070

【出願番号】特願2013-119842(P2013-119842)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F 13/56 (2006.01)

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

【F I】

A 4 1 B 13/02 H

A 4 1 B 13/02 T

【手続補正書】

【提出日】平成28年3月30日 (2016.3.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前胴回り域、後胴回り域及び股下域とから構成され、液保持性の吸収体を含む縦長の吸収体と、

前記吸収体の幅方向における側縁部の少なくとも一部に設けられるサイドフラップと、
前記サイドフラップに取り付けられ、前記前胴回り域または前記後胴回り域の一方から前記吸収体の製品幅方向外側に延出し、前記前胴回り域または前記後胴回り域の他方に止着されるように構成された一対のファスニングテープと
を備える使い捨ておむつであって、

前記ファスニングテープは、前記サイドフラップから延在する基材シートと、前記基材シートの肌当接面の一部に備えられ、複数の係合フックが設けられたフックシートとを含み、

前記フックシートは、前記基材シートの製品幅方向外側の端部まで備えられ、

前記フックシートが存在するフックシート存在域における前記ファスニングテープの製品幅方向における単位長さ当たりのKES曲げ剛性値は、 $0.015974\text{N/cm}^2/\text{cm}$ 以下である使い捨ておむつ。

【請求項 2】

前記吸収体の製品幅方向における中心に向かって凹んだ脚回り開口部に沿って製品長手方向に延在するとともに、少なくとも製品長手方向に沿って一部が伸縮可能な一対のレッグ伸縮部を備え、

前記レッグ伸縮部は、前記股下域から前記ファスニングテープに向かって湾曲している請求項 1 に記載の使い捨ておむつ。

【請求項 3】

前記股下域において前記吸収体を構成する吸収性コアと重なる位置に形成されており、伸縮性を有するクロッチ伸縮部とを備え、

前記クロッチ伸縮部は、

前記吸収性コアの製品幅方向における幅の 60%以上の領域に形成され、

前記前胴回り域及び前記後胴回り域と、前記レッグ伸縮部とから独立して設けられる請求項2に記載の使い捨ておむつ。

【請求項4】

前記ファスニングテープの肌当接面には、肌当接面側から非肌当接面側に向けて圧搾されたエンボスが形成されており、

前記エンボスは、少なくとも前記フックシートの一部と、前記フックシートと前記基材シートとの境界を跨ぐように形成される請求項1乃至3の何れか一項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項5】

前記エンボスの密度は、製品幅方向内側から製品幅方向外側に向かうに連れて高くなる請求項4に記載の使い捨ておむつ。

【請求項6】

前記ファスニングテープは、製品幅方向外側に向かうに連れて製品長手方向における幅が狭くなる先細り状である請求項1乃至5の何れか一項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項7】

前記フックシートは、前記基材シートの製品長手方向外側の端部まで備えられる請求項1乃至6の何れか一項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項8】

前記ファスニングテープの一方と、前記ファスニングテープの他方との間には、製品幅方向に沿って伸縮可能な要素が設けられる請求項1乃至7の何れか一項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項9】

前記ファスニングテープが接続される前記サイドフラップの部分は、製品幅方向に沿って伸縮可能な要素によって構成される請求項1乃至7の何れか一項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項10】

前記ファスニングテープの係合力は、 $0.3\text{N}/30\text{mm}$ 以上、 $1.5\text{N}/30\text{mm}$ 以下である請求項1乃至9の何れか一項に記載の使い捨ておむつ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の特徴は、前胴回り域（前胴回り域20）、後胴回り域（後胴回り域30）及び股下域（股下域25）とから構成され、液保持性の吸収体を含む縦長の吸収体（吸収体40）と、前記吸収体の幅方向における側縁部の少なくとも一部に設けられるサイドフラップ（サイドフラップ70）と、前記サイドフラップに取り付けられ、前記前胴回り域または前記後胴回り域の一方から前記吸収体の製品幅方向（製品幅方向W）外側に延出し、前記前胴回り域または前記後胴回り域の他方に止着されるように構成された一対のファスニングテープ（ファスニングテープ90）とを備える使い捨ておむつ（使い捨ておむつ10）であって、前記ファスニングテープは、前記サイドフラップから延在する基材シート（基材シート91）と、前記基材シートの肌当接面の一部に備えられ、複数の係合フックが設けられたフックシート（フックシート92）とを含み、前記フックシートは、前記基材シートの製品幅方向外側の端部まで備えられ、前記フックシートが存在するフックシート存在域（フックシート存在域 S_{HS} ）における前記ファスニングテープの製品幅方向における単位長さ当たりのKES曲げ剛性値は、 $0.015974\text{N f/cm}^2/\text{cm}$ 以下であることを要旨とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

(1) 使い捨ておむつの全体概略構成

図1は、本実施形態に係る使い捨ておむつ10の展開平面図である。図2は、図1に示したF1-F1線に沿った使い捨ておむつ10の断面図である。図3は、図1に示したF2-F2線に沿った使い捨ておむつ10の断面図である。図1に示す展開平面図は、使い捨ておむつを構成するトップシート50、サイドフラップ70等の皺が形成されない状態まで、レッグ伸縮部75及びレッグサイドギャザー80の弾性部材71を伸長させた状態の図である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

また、フックシート92が存在するフックシート存在域 S_{HS} におけるファスニングテープ90の製品幅方向Wにおける単位長さ当たりのKES曲げ剛性値は、 $0.015974N/cm^2/cm$ 以下である。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

ここで、表1は、ファスニングテープ90の実施例及び比較例に係る基材シート91の構成及びKES曲げ剛性値の値を示す。

【表1】

(単位)	基材シート構成				KES曲げ剛性値		試験結果
	1層目 (内側層)	不織布種類	2層目 (外側層)	不織布種類	製品長手方向	製品幅方向	
	(g/m ²)		(g/m ²)		(N・cm ² /cm)		
実施例1	15	スパンボンド不織布	15	スパンボンド不織布	0.007938	0.007644	良
実施例2	20	スパンボンド不織布	15	SMS不織布	0.013916	0.009996	良
実施例3	30	スパンボンド不織布	－	－	0.11466	0.00784	良
実施例4	30	スパンボンド不織布	10	PEフィルム	0.10976	0.017934	良
比較例1	40	スパンボンド不織布	－	－	0.019012	0.023128	不良
比較例2	50	スパンボンド不織布	25	スパンボンド不織布	0.020286	0.020188	不良
比較例3	25	スパンボンド不織布	50	スパンボンド不織布	0.02107	0.020678	不良

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0142

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0142】

脚回り形成工程は、レッグ伸縮部75の幅方向外側端部に沿って、トップシート50、外装シート60、及びバックシート60aを切断する。これにより、着用者の脚回りに配置される脚回り開口部35が形成される。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 4】

(5) 作用・効果

上述した使い捨ておむつ10によれば、複数の係合フックを有するフックシート92は、基材シート91の製品幅方向W外側の端部まで備えられる。また、フックシート92が存在するフックシート存在域 S_{HS} におけるファスニングテープ90の製品幅方向Wにおける単位長さ当たりのKES曲げ剛性値は、0.015974N /cm²/cm以下である。